

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英
幹事 兼子 聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019～2020年度国際ロータリーテーマ

第1619回例会

令和2年2月13日 (18:30～19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○スマイルBOX

- 中目公英会長（歴史文化愛好会の担当例会として、関谷亮一会長のご苦勞に感謝致します。卓話をされた堀田一彦会員には詳しいお話をありがとうございました。）
- 宮本多可夫会員（今日は、だいぶ暖かくなってきました。堀田一彦会員、卓話ありがとうございました。）
- 永野文雄会員（堀田会員、卓話ありがとうございます。先日のIMもバスの運転手ありがとうございました。）
- 堀田一彦会員（成井ガバちゃんファイト！）
- 関谷亮一会員（堀田さん卓話ありがとうございました。感謝致します。）

社会奉仕委員会 楽器寄贈事業



寄贈日 2月15日 (土)
コミネスにて目録贈呈

第一小学校器楽部演奏会（詳細は6Pに掲載）

▶第1619回例会出席状況 (R2年2月13日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	19名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	7名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	26名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	51
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	50.98%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

中目公英会長

皆さん、こんばんは、何かとお忙しい中、今日も例会に出席をさせていただいて本当にありがとうございます。先週の例会以降、週末の県南分区のIM、それからだるま市の日には社会奉仕委員長と一緒に白河ユネスコ協会の街頭募金の協力と、1週間ずっとロータリー漬けの毎日を送ってまいりました。さて、そのようなロータリー漬けの中、今日も皆さん方にお伝えをしないとイケないことがあり会長の時間でお話をさせていただきます。2月の月間テーマは平和構築と紛争予防月間とロータリーではなっております。平和構築と紛争予防です。なんとなくこのテーマはピンときませんが、ロータリアンの皆さん方に情報を伝達しなさいとメールがRIから来ましたので、ちょっとお話をさせていただきます。ロータリー財団のことで、ビルゲイツ&メリンダ財団はロータリアンが一年間ロータリー財団に寄付したのと同額を財団に寄付されます。5ヶ年継続をして、今年度でそれが一応終了なのですけれども、この間ビルゲイツ&メリンダ財団が来年度以降も継続すると正式にご決定をしました。今月、平和構築と紛争予防月間の中で一番強調しないとイケないことは、ロータリアンとして世界の平和と紛争の予防のためにロータリー平和フェロウシップという制度が整えられているということです。世界情勢の中で争いがあるような所の争いを解決するその根本は、平和は人から始まるという考え方をロータリーは持っています。その人を養成をして紛争をもとから絶ちましようということです。このロータリー平和フェロウシップの申請が今月中になります。皆様方のお知り合いの中でこの申請をしたいという方がいらっしゃったならば、私のほうにお声をかけていただければと思います。この申請をいたしますと、フェロウシップとして奨学金、この奨学金の中には授業料、入学料、滞在費、海外の大学の場合には往復の航空券等々のすべての費用をロータリーが支援します。まあ、海外の大学はちょっと縁遠いので日本国内はどこかの大学が提携をしているかといいますと、国際基督教大学です。残念ながら学部ではなくて修士からマスターからになります。ですから、国際基督教大学の平和構築のためにアーツサイエンス研究科、科に進みたいという方がいらっしゃった場合には申請をさせていただきますと、おそらく何百万単位の奨学金が出るシステムになっています。現在、実績として1300人以上の方々がこの奨学金を受けまして、例えばこの間お亡くなりになった緒方貞子さんをはじめ、いろいろな国際機関の中で平和構築のためにロータリーの支援をいただいで活動をしています。私の年度から吉野年度の2020年から2021年にかけてのこの奨学金を貰える方の申請を今受け付けています。皆さんの中からどなたか関係者の方々、今度国際基督教大学の修士学部に行く人がいらっしゃったならば、一言声をかけていただければと思います。そのようにロータリーはロータリー財団を通じて世界の平和に構

築をしている。これも今年度のRIの会長テーマである、ロータリーは世界をつなぐことの一つの実例です。ロータリーでは何をやってるんだと聞かれた時に、実はこういう事をやっているんだとお話していただければ、皆さん方一人一人がロータリーの世の中に対するPRになり、公共イメージが向上するわけであります。ひとつ今月の月間テーマの平和構築と紛争予防についても、もう少しご理解をいただければありがたいと思います。今日の卓話は、歴史文化愛好会の担当例会で我がクラブの堀田さんから小峰城の修繕につきましてお話をいただくことになっております。皆さんと一緒に楽しみに聞きたいと思っております。どうぞ今日の例会もよろしく願いいたします。

■幹事報告

兼子聡幹事

- 東日観光株式会社：2020年国際ロータリー年次大会参加旅行募集案内送付のご案内
- ガバナー事務所：会長エレクト研修セミナー開催のご案内

■委員会報告

○スキー愛好会

佐藤幸彦会長



皆さん、こんばんは。先々週ですけども、スキー愛好会のご報告をさせていただきます。2月1日2日、山形蔵王にて行われまして、米沢中央ロータリーさんはじめ、天童ロータリー、山形ロータリー、全部で7つくらいのロータリーさんと交流を深めてまいりました。2月2日の夜には、中目会長と兼子幹事も駆けつけていただきまして、総勢38名の中で懇親会を深めることができました。38名の中に上座がありまして、中目会長にもそこに座っていただきながら挨拶をしていただくことができました。ちなみに、参加者の中では齋藤榮助さん、米沢中央ロータリーの次年度ガバナーですね、今ガバナーエレクトもいらっしゃってまして、皆さんによろしくということでもございました。また、このスキー愛好会、天童ロータリーの野川さんという方が会長をしているわけですが、野川さんは今年天童商工会議所の会頭になられたということでもございました。それと、その他にも白河ロータリーから斎藤正明さん、溝井さんもご参加いただきながら楽しい一日、一夜、交流会をしてまいりました。以上、簡単ではありますが報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■本日のプログラム

○歴史文化研究愛好会

関谷亮一会長



皆さん、こんばんは。この白河地方もだるま市が終わると春めいてくるというふうに言われてるんですが、まさにそのとおりで何かだるま市に合わせて天気も暖かくなった。今日夕方は大体13度、本日にこうなんというんですか4~5日前に比べたら雲泥の差

で、ちょっと戸惑いを感じますが果たしてこういう天気であまりの上下があって本当にどうなのかなと心配している一人でございます。北極の水が解けるとかいろいろこういうお話しされてますが、やはり我々一人一人がいろいろと気を付けながら自然と共生をしたほうがいいんじゃないかなとそんなふうに感じています。今日の卓話は会員卓話で、歴史文化愛好会でご推薦をいたしました堀田会員に白河の小峰城の修復の苦労話やそういうものをお話をいただきたいというふうに思っております。2011年にあの震災があった時に崩れ落ちた小峰城、我々も非常に心痛めていたわけですが、幸いにして国の重要指定文化財ですか、そういう崩れる1か月か2か月前に指定になった。まさに、奇跡的に国が修復するという事になったんだと思うんですが、それらを手掛けて7年になるそうですが、この7年間堀田会員もその修復の一員として携わって、それなりの非常に苦労した部分があるのではないかなそんなふうに思います。今日は皆さんと共にそれらの苦労話をお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

○会員卓話

堀田一彦会員



皆さん、こんばんは。歴史文化研究愛好会からの使命を受けましたので、小峰城の石垣についての話をさせていただきたいのですが、小峰城の石垣の話も3回目になりますのでちょっと今回は石垣の構造的な部分とか何故どのようにして石垣が崩落したのか。それに対してどのような工夫対策をして、石垣を積み上げたのかという部分についてお話をさせていただきたいと思っております。まず、石垣の構造のお話をする前に小峰城が今建っている所は昔は小峰ヶ丘という丘だったそうです。基本的に昔からのお城などは自然を生かしまして、阿武隈沿いにある少し小高い丘、そこにお城を立てるとことなのですが、例えばここが丘だとすると、どのようにその辺に石垣を造ったのかといいますと、小峰城の場合ですと10メートル程度の石垣が二段になっております。ちょっと絵が下手なんですけども、例えば10メートル程度の石垣を二段にするということなんですけども、一番効率がいいのはこの出た土を場内で処分する、ここに石垣を建てたらこの余った土をここに削って、この土を石垣の背面に持ってくる。つまり、切土と盛土と大体一緒ですか。今の例えば団地とか、工場とか、山の造成する際も基本的に切土と盛土、これ一緒にします。なぜならば、一番効率が良くってお金がかからないと。城外に余った土を持ってったり、土が足りなくて他から持ってくるという作業はとて手間がかかるので、基本的にはあるものを利用して形に合わせたような所に石垣を作って、余った土は石垣の背面に盛っていたというのがまず石垣の構造をお話するのに、ちょっと予備知識として入れておきたいと思っております。次に石垣の構造のほうをちょっと書いていきますと、例えばこんな感じですかね。これが石垣、ここに栗石と呼ばれるような玉石ですね。河原に落ちていたような玉石を敷き詰めて、この部分

が盛土、ここで切ってるんですけど、大体このような形です、これが一般的な構造になっております。この栗石なんですけど大きく二つの重要なポイントがありまして、この栗石はこの石垣の強度を上げるためにまずはこの石と石の間に綺麗に隙間がないように積み上げます。例えば、石垣があってこの栗石、この辺に隙間が空いています。そうするとですね、上からの重量で石が折れちゃうんです。してしまふので、設置面積を大きくするのになるべく広く隙間がないように栗石を詰め込んでいくという作業がありまして、この栗石というのは石垣の強度を上げるのにとっても重要な役割をしている。それともう一つ、重要な役割をしているのが排水です。雨が降って水が流れますよね。その水を栗石の隙間を通して石垣のほうから流れるように。大体栗石の大きさが20センチから30センチ程度ありますので、この隙間というのも5~6センチあります。なので、この栗石というのは石垣の強度を上げるのと排水処理のほうで重要な役割をしているということで、石のつらから後ろまでだと大体小峰城の場合ですと1メートルから1メートル30センチくらいの間に栗石を詰め込んで、その後ろが盛土と地山というような二層になっています。これが昔の石垣の構造なんですけど、これが何故崩れてしまったかということ、雨が降ると地山に浸透する水と盛土のほうに浸透する水というふうのを考えますと、盛土も地山いるんですけど、基本地山のほうが固くなっていて、あまり水が浸透しづらい。しかし、盛土のほうは浸透しやすいので、余計に水がこちらのほうに来るんですね。先程も言いましたように、栗石の間を通して水は流れるのですが、これが50年100年という時間が過ぎますと、栗石の間に土砂も一緒に染み込んでしまうと。そうすると、目詰まりを起こしてしまうんですね。ここまで土砂が詰まった栗石の状態になると。当然、こちらは土砂がなくなると水の流れがクリーンになりますので、大変重い土、土砂になるわけです。大変重い土砂なので崩れる前にこの石が少しこうはらんできたりとか、地盤沈下が少し起きたりとか、そのような兆候が見受けられるんですが、小峰城の場合は先程も仰いましたが、文化財になったのは2011年2月ということで、補修するお金がなかったんですね。その補修をしていなかったもので、3.11の地震の時にとっても強い揺れが起きまして、盛土の部分の非常に重たい土砂、これが揺られましてここでボキッと折れたという形ですね。基本は大体、下から三分の一程度のところで



ほとんどの石垣が折れています。折れてこのように崩れたんですかね。本当にポキッと折れて、その上はそのままです。下はバタンと倒れたというふうな崩落のところはほとんどでございます。今も崩落したところは工事は終わったんですが、今度ははらんでいる所、崩れそうなところを今、補修しているという状況でございます。続きまして、それに対してどのような工夫対策をして石垣を積んだかといいますと、先程話しましたように、この栗石層、これは排水と強度を上げるのに重要ですので並べたんですが、小峰城ではこの石のつらから石垣の栗石の最後まで2200、2メートル20センチで統一しております。以前は1300程度だったんですが2200に増やしまして、土砂が詰まらないように工夫をしていく。土砂が詰まらないようにすべて栗石にしちゃえばいいだろうとかいう話もあるんですが、そうすると石なんて重すぎて石の重量で崩れてしまうと。なので、2200というのが一番小峰城の10メートル程度の石垣には合ってるサイズだと。その後ろの軽い土にするということで、あともう一点ここに土砂流入防止層というものを設けております。これ何で出来ているかという、単粒碎石というものを使用して、これ単粒ですね。幅30センチで単粒の60、80というものを使っているんですが、単粒の碎石というものはよく暗渠なんかで使うような碎石になっています。例えば、住宅ですとか道路に使用する碎石というのは0~40だったり0~80だだと言いまして、非常に細かい粒が入っていてそれが隙間に入ってよくしなる、軽くなる構造なんです。この単粒というのはゼロが入っていないので必ず隙間があります。その隙間から水が流れてこの栗石層に行って最後外に出るように。なるべく隙間が6センチから8センチのサイズなので、土砂がこの栗石層になるべく流れないように工夫しております。それともう一点、背面このような幅になっているんですが、この盛土は今回石灰処理をしまして少し硬めに180キロくらいの強度になるようにしまして、石灰と赤土を混ぜましてなるべく地山と同じような浸透圧、水があまり染み込まないようなものを使って施工のほうをしております。このバランスが一番いいそうで、これは熊本でもこのような形の構造で施工をされるようです。ちなみに、お城山の石垣を積んでいた山梨の石工さんが去年の10月に筑波国立防災科学研究所という所で、熊本城の石垣震度実験というのをやったそうです。まあ小峰城はお金がなかったので実証はできな

かったのですが、熊本城のほうはお金がありますので、積む前に筑波の研究所で実際に振動試験を実験を行なったと。3回連続670ガル。このガルというのは加速度のことなので、震度とはなかなか直結はできないんですが、熊本城震度7くらい程度の揺れを3回連続で実験したところ、この構造で一切崩れなかったということなので、基本的には後ろの土砂が重くなったり栗石のほうに土が入り込まない限りは、ほぼ崩落しないような構造となっております。続きまして、石垣の加工方法についてお話していきます。加工方法を大きく分けて3つあるんですが、一つ目が野面積み(のづらづみ)という、これは全く石を加工しない積み方となっております。この野面積みといえば穴太衆(あのをしゅう)というのを聞いた方もいると思うんですが、穴太衆という石工さんの集団がとて有名なんです。これは比叡山延暦寺の焼き討ちを織田信長がしたんですが、その時に建物は焼けたんですが石垣が残っていたと。石垣も取り壊せとなったんですが、とても硬固だったので壊せなかったということで、その時から穴太衆というのは全国的に有名になりまして、例えば兵庫の竹田城の天空の城なんかも野面積み、穴太衆が積んでいます。その時から穴太衆イコール野面積みとなっておりますが、実際これは穴太衆というのは優秀な石工さんなので野面積み以外の積み方もすべてできると。ただ、野面積みは加工しない空積みなのでとても技術があると。その技術を持っているのが穴太衆ということになります。例えばですけど、石加工していない例えばこの辺がとて面積が大きく開くような場所もかなりできてきます。要は、野面積みなので前面を気にするのじゃなくて奥行きまで計算して、なるべく荷重が分散するよう大きな石と小さな石を組み合わせながら積んでくやり方です。ただ、この野面積みには大きな欠点がございます。目地が空いているので上りやすいんです。すぐ上られちゃうんで戦争中なのでこれはよろしくないということで、次にできたのはこれは加工法なのですが、打込み接ぎ(うちこみはぎ)というような加工方法ができてきました。この打込み接ぎというのは、ある程度ノミとハンマーを使いながら打ち込んでそこそこ加工すると。加工してその間にまるめ石というものを積めて目地をなくしてなるべく上りづらくするというような加工方法です。これ加工できるので野面積みなど技術はいりません。ただ加工する技術が今度必要になってくるというような積み方で、最後にできたのが切込み接ぎ(きりこみはぎ)という積み方で、今、小峰城も清水門から入った正面の石垣あれが切込み接ぎです。切って加工しているので、もう目地がないですね。ぴったり加工して目地なしで積んでいるというのが、これが切込み接ぎというので、打込み接ぎは基本、野面の後で、例えばこれ織田信長の時代だとすると、豊臣秀吉の時代が打込み接ぎ。その後、関ヶ原以降に切込み接ぎという技術が加工の技術ができてきていると。基本、切る技術というのは今もとても発達していますので、それ以降の改修工事なんかだとほぼ切込み接ぎになってます。逆に野面だったり打込み接ぎというのは、その技術が衰退され



ているのでなかなかそうやって補修する石工さんというのは少ないというような現状です。さらに、ここに積み方の種類というのもありまして、一番代表的なのがこの布積みという積み方です。これは小峰城だったり棚倉城跡だったり、一般的な積み方ですね。レンガはブロックもこの布積みになってまして、縦の目地はとおりませんが、横の目地通ってるこの積み方がこれ布積みといます。これは一番簡単でして、加工の技術は必要なんですけど、積む技術はさほどなくても強度を出せる積み方となっています。それにもうあと一か所が小峰城の清水門の正面の所、あれが乱積みですね。目地をどこも通さないで不定期に積んでいるのが乱積みということになります。基本はこれの組み合わせです。布積みの野面もありますし、布積みの打込み接ぎ。また、切込み接ぎもある、乱積みもあります。基本はこの組み合わせで大体6個くらいの積み方となります。積み方としては大きく分けるとこのような積み方になります。このほかにも例えば谷積みであったり、いろいろな積み方もあるんですが、基本は江戸時代くらいの積み方の布積みになってきます。それとこれ石垣の隅の部分、角の部分になるんですが、長い長辺を正面に持ってくる。その次の段は長辺をこっちの面に重ねて積むのを、これ算木積みといます。算数の算に木で算木積み。これよく荷物とか高く重ねたい時は交互に積んでいくという積み方で齋藤さんのお米とかも基本同じ方向に高く積むのではなく、横に積んだら次は縦、これが算木積み。これはもうかなり昔からあったんですが、お城の角を積む際には基本この積み方をしていきます。例えば、熊本城なんかで地震があった際にお城があります、石垣ほぼ崩れていたんですけど、角だけ残っていたんですよ。あれ算木積みのこの角の部分だけお城を支えて残っているというくらい強い積み方になっています。小峰城もそうなんですけど、皇居江戸城なんかに行くと、とても大きな巨大な石で算木積みをしていることとなります。時間、まだまだあります。じゃあもう、話すことなくなったので、質問を受けたいと思います。例えば、白河石のお話をしますと白河石は安山岩でとても水分を吸収しやすいような性質になってます。要は空隙がありちょっと柔らかめな石ということになります。この白河石というのは、水分を多く吸収しますので冬は凍ったりして風化しやすい石になってます。なので石垣、先程説明したとおりに積んだんですが、石自体の強度が足りてないので、もしかするとそ

の部分で石壊れたり、風化して崩れる可能性も無きにしも非ずということです。例えば、山梨とか岩手のほうはとてつても硬い石らしいですね。安山岩はわからないですけど、そのような石が白河石。

○質問 (成井正之会員)

どこのあたりから切り出したのですか、その石は。

○堀田一彦会員

白河石は阿武隈川の反対側のあの山が昔石山だった。西郷のほうですね。そう、田中石材さんが、あと大信に抜ける294号、あの辺一体も石山だったんです。あの辺から切り出して、それを馬車とか牛車で運んで持ってきたということらしいです。

○質問 (成井正之会員)

算木積みしている所は白河石なんですか。

○堀田一彦会員

全部白河石です。あとはもうすべて白河石です。

○質問 (成井正之会員)

じゃあ、風化すると柔い。

○堀田一彦会員

そうですね、なので表面が欠けたりというのはとても多いです。面(つら)が割れているんですね。

○質問 (成井正之会員)

あれを元のように修復した時には番号を付けていたとか。あれはやっぱりコンピューターで解析しながらやったんですか。

○堀田一彦会員

コンピューターで解析できないほど、要は落っこっちゃったんで、割れたり、ひび入ったりしてなかなかわからないので、形は似てるんですけど実際積もうとすると石が逆だったりというパターンもあるので、そこは工法を選んでそれで調節しながら石の奥行きですね、奥の形も見ながら進んでいった作業になっています。

○質問 (成井正之会員)

石に目というのは

○堀田一彦会員

あります。僕はわかります。見ればわかるんですけど、見える石もあるんです。実際、縦に線が入っている石とか。例えば、新補石材、新しく購入するとそうすると傷が付いたりするんですけど、それは返却するんですけど、基本やっぱり山傷が入ってることあります。それはハンマーで叩くとわかるんです。僕はわかるんですけど、叩くとその



響きなんですかね、音なんですかね、その辺でわかるんです。そういうことです。

○質問（永野文雄会員）

今回の工事を見てますと、レッカー車がずいぶん使われてましたが、当時はどういうふうにして重い石を上げたり運んだりしたのか推測しますか。

○堀田一彦会員

ここで石垣全部積むんじゃなくて、搬入加入口残しながら積んでいくんです。この基本上にあったほうが石は下から上へ上げるのは容易でないで、ここ通路はある程度のところまでは牛とか馬で引っぱると。あと残りは丸太を置いておいて、その上に石を乗っけてある程度引っ張り上げて、上にストックしておく。あとは三脚ですよ。丸太三本組んで、今のチェンブロックみたいな形なんですけどそれで積んでいったということらしいです。鉄があったので、もしかすると全ブロック本当にチェンブロックかもしれないですけど、そのようにして三脚で基本はということ。あと例えば、算木積み積み方なんですけど、こうあったら一番先に積む所は真ん中の石です。真ん中の石を積んでからこの石を積む。これが滑っちゃうんで、ここに丸太かませて滑らないように積んでいったそうです。解体する時もそうですね、だから。解体の現場もここ撤去して丸太で押さえておいて最後まで2番目にスミ石をして撤去して、最後に真ん中取るといような解体の順番を行います。算木積みなので、こっちにもかかるし力が分散されて一体化されてる積み方ということになります。あとは何かありますでしょうか。

○質問（宮本多可夫会員）

ちょっと話は変わっちゃうんだけど、白河石は水を含み

やすく脆いなんていうのは、加工しやすいというそういう側面もあってね。これが建物の建築じゃなくて踏み石、敷石なんかで重宝がられるということ。芦野に行った時に石の博物館があって、あそこで見ると芦野石も白河石とかほとんど性質的には同じなのかなと。名前だけ違う感じ。それでこの辺のその石が東京の公園かなんかに珍重されて向こうに使われているというような場所が向こうであったりして、白河石なんかも全国的に東京のほうで使われてる例があるのかとか、あるいは東京駅の下の石は須賀川あたりの石が使われているというのをちょっと聞いたことがあるんですけど、そういう福島県の石が東京あたりで活躍してるような事例があればちょっと紹介いただいて、地場産業のひとつの例としてちょっとあれば教えてください。

○堀田一彦会員

那須の石なんかは有名なものですから、本当に各地で使われているんですけど、白河石は何故かあまり使われていない、有名にならなかったんです。須賀川の石も使われているんですけど、なかなか白河の石屋さん他に持っていくところがなく、本当に多分ほかにはあんまり持って行ってないんだというふうに思います。ただ、今宮本先生が仰ったように敷石にも使うんですが、やっぱり水に濡れると苔が生えやすかったりして、非常に滑りやすいんですね、白河石って。なので、横にちょっと線を入れて加工して苔が生えても滑りづらくして敷石には使ってます。あと、例えば石灯笼なんかを白河石で作ると本当すぐに苔が回ってくれるので、とても灯笼作りには合ってる石かなというふうに思います。

社会奉仕委員会 楽器寄贈事業

1.目的 楽器寄贈や寄付を通して、地域のこれからの担う小中学校における文化向上の一助とする。

<事業背景>

白河市は小中学校の器楽クラブ活動が盛んな地域であります。また文化施設「コミネス」など充実した施設があるにもかかわらず、教育委員会やPTA（体育文化後援会等）からの活動予算に対する補助と助成が非常に小さい傾向にあります。その結果、楽器の購入・修理費・遠征費用にあてる予算が不足しています。故に固有の性能を発揮できない楽器を使用するに至ります。また楽器を他の学校と貸し借りなど、共有して使用するというような現状もあります。この現状をメンバーに周知し、今後の活動に生かしていくことも必要と思います。今回の事業では、形に残る楽器本体の寄贈を目的に行います。

2.事業内容

<事業内容>楽器寄贈（事業対象者にヒアリングし内容を精査し決定する）

※各学校にヒアリング結果

○第一小学校：器楽クラブ担当の教員より、コントラバスの劣化が著しいので、楽器本体の更新費用にあてたい。

○第二小学校：修理代など

○第三小学校：修理代・遠征費・ユニホームなど

<事業対象者>白河市立白河第一小学校

器楽クラブ2018年から2年連続で文部科学大臣賞受賞（実質全国一位）という素晴らしい成績をおさめています。

さらなる飛躍を期待して楽器寄贈をします。

3.寄贈日程等

2月15日（土）第一小学校器楽部 演奏会 コミネスにて目録贈呈